

令和4年度 中学校教育研究会 公開授業

## 英語科学習指導案

指導者 北信教育事務所学校教育課 指導主事 倉澤 航 先生  
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 教授 酒井 英樹 先生  
日 時 令和4年5月13日(金)  
授業学級 3年D組(41名)  
授業会場 3年A組教室  
単元名 「10年後の平和な社会の実現に向けて考えを提案しよう」  
授業者 柳澤 征之

1	英語科の研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	英語 1
2	教科としての全校研究テーマの受け止め・・・・・・・・・・	英語 1
3	単元名・学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	英語 1
4	単元の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	英語 1
5	単元の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	英語 2
6	英語科として、全校研究テーマに迫るための仮説	英語 2
7	単元に寄せた教材化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	英語 2
8	単元展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	英語 7
9	資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	英語 9

信州大学教育学部附属長野中学校 英語科

研究者 柳澤 征之 佐藤 大樹 入間川浩侑己 寺島 未歩  
Nanami Mimura Chase Cakmis 阿部 知之

## 1 英語科の研究テーマ

事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方

## 2 教科としての全校研究テーマの受け止め

「おすすめしたい体験を提案しよう」・2年（令和3年11月）では、来日する外国人におすすめしたい体験をグループ内でまとめて提案するために、事実や考え、気持ちなどを友と伝え合う学習を構想した。そこでは、得られた複数の情報を、考えや理由とその根拠との関係が明確になるように「My logical sheet」に整理しながら、やり取りを繰り返す活動を位置付けた。

S生は、来日するALTの友人であるHenleyに長野でおすすめしたい体験を考える際、単元の前半で学んだことを生かし、Henleyの願いに基づいて「My logical sheet」の理由の部分の整理し、グループの友とやり取りを行った。S生は、Henleyの気持ちを汲み、理由とその根拠とのつながりを意識することで、自分の考えや理由とその根拠の関係を明確にし、Henleyに喜んでもらえるような体験を友に伝えることができた。このようなS生の姿は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、おすすめしたい体験について事実や考え、気持ちなどを友と伝え合うことができた姿であると捉える。（研究紀要 英語9～12）

また、単元の終末、Lesson Goalについて振り返った後、「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画や毎時間の振り返りを見返しながら本単元の学習過程を振り返り、今後の学習に生かせそうなことを考える場を位置付けた。S生は、「Henleyさんに提案内容を伝えた時、喜んでくれてよかった。友に納得してもらえるように考えや理由とその根拠を明確に示しながらやり取りを行ってきたことで、よりよい提案につながったと思う。」と振り返った。このようなS生の姿は、相手意識をもって英語を学習するよさを実感したり、互いの考えを伝え合うためには、得られた情報を考えや理由とその根拠との関係が明確になるように整理することの有用性を認識したりすることができた姿であり、学んだことの意味や価値を自覚することができた姿と捉える。（研究紀要 英語12～13）

本単元「10年後の平和な社会の実現に向けて考えを提案しよう」・3年では、10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいことを同年代に提案する。そのために、「My Idea Note」に新しい情報や友の考えをメモしたことを基に自分の考えを整理しながら、やり取りを繰り返す。このようにすることで、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、国際問題に関する話題について、考えたことや感じたことを述べ合うことができると考えた。

また、単元の終末、「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画や毎時間の振り返りを見返しながらLesson Goalに向けた学習過程を内容面と言語面から振り返る。その後、「10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいこと」について、大学生とやり取りを行い、意見を述べ合うために必要なことについて考える。このようにすることで、英語で意見を述べ合うことのよさを実感したり、相手の考えに関わらせて自分の意見を述べていくことの有用性を認識したりすることができると考えた。

上記のような学習を積み重ねていくことで、英語科の研究テーマ、さらには全校研究テーマを具現し、「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考え、本研究を構想する。

## 3 単元名・学年 「10年後の平和な社会の実現に向けて考えを提案しよう」・3年

## 4 単元の目標 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいことを同年代に提案するために、国際問題に関する話題について、考えたことや感じたことを述べ合うことができる。

【(3)-ウ】

※ 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料「中学校 外国語」によると、英語の目標は、資質・能力の三つの柱を総合的に育成する観点から、一文の能力記述文で示すことが基本となっているため、本校他教科の学習指導案の単元の目標とは異なる表記をしている。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 現在分詞や過去分詞を後置修飾として用いた表現の特徴やきまりを理解している。 <b>技</b> 国際問題に関する話題について、考えたことや感じたことを、現在分詞や過去分詞を後置修飾として用いた表現などを用いて述べ合う技能を身に付けている。	<b>思</b> 10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいことを同年代に提案するために、国際問題に関する話題について、考えたことや感じたことを述べ合っている。	<b>態</b> 10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいことを同年代に提案するために、国際問題に関する話題について、考えたことや感じたことを述べ合おうとしている。

## 6 英語科として、全校研究テーマに迫るための仮説

### (1) 重点1に関わる仮説

- ・10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいことを同年代に提案するために、「My Idea Note」に新しい情報や友の考えをメモしたことを基に自分の考えを整理しながら、やり取りを繰り返す活動を位置付ける。このようにすることで、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、国際問題に関する話題について、考えたことや感じたことを述べ合うことができる。(単元)
- ・提案したいことについて友とやり取りを行い、考えの視点や表現の仕方を全体で共有した後、自分の「My Idea Note」を見返す活動を位置付ける。このようにすることで、自分の考えを整理して2回目のやり取りへの見通しをもち、友の提案内容について考えたことや感じたことを理由とともに述べ合うことができる。(本時)

### (2) 重点2に関わる仮説

- ・単元の終末、「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画や毎時間の振り返りを見返しながら Lesson Goal に向けた学習過程を内容面と言語面から振り返った後、「10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいこと」について、大学生とやり取りを行い、意見を述べ合うために必要なことについて考える場を位置付ける。このようにすることで、英語で意見を述べ合うことよさを実感したり、相手の考えに関わらせて自分の意見を述べていくことの有用性を認識したりすることができる。

## 7 単元に寄せた教材化

### ア 国際問題に関する話題を扱う意図

「話すこと〔やり取り〕」における3年間の構想図(研究紀要 英語2 図2)では、「社会的な話題について、考えたことや感じたことを理由とともに述べ合うことができる。」を3学年の目標として設定している。本単元では、社会的な話題として、近年の国際問題に関する話題を扱うことを考えている。この意図は、以下の通りである。

2019年12月頃より世界的に流行し始めた新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関わる偏見や差別を始め、2021~22年の東京及び北京オリンピック・パラリンピックでの国籍変更やLGBTQの問題、そして2022年2月からのロシアによるウクライナ侵攻など、近年、様々な国際問題が起きており、多くの人々が協力して乗り越えていかななくてはならない課題がいずれの国際問題にもある。生徒は、これらの国際問題についてニュース等のマスメディアから日常的に情報を得る機会があるため、自分なりの考えや感想を抱いており、その中でも戦争や平和に関する話題について強い関心を示している。

このような現状の今こそ、国際問題を抱える社会がどうあるべきかについて、友と意見を述べ合うことは、生徒が、社会や世界とのつながりを意識するため、必要感をもって取り組むことができると考える。また、上記の国際問題を1年次の総合的な学習の時間で扱ったSDGsの各項目と関連付けて捉え、自分たちの未来へとつながる身近な問題として捉えている生徒も既にいる。このような生徒の姿から、国際問題に関する話題を扱うことで、生徒は、自分の考えを伝えたいと願ったり、他者の考えを知りたいと願ったりして、やり取りに向かっていこう。生徒は、本単元で考えたことを、生徒会の各活動や広島への修学旅行に向けた事前の平和学習、また、「自分の生き方」に関わる総合的な学習の時間の学習へと、学びを広げていくこともできると考える。

### イ「My Idea Note」を扱う意図

これまでの学習において、生徒は、聞いたり読んだりして得た情報を基に、自分の考えを形成したり再構築したりしてきた。その際に、「ロイロノート」の思考ツールや授業用のノートなどのメモ（以降「My Idea Note」と表記する）に、考えや理由とその根拠を整理しながら、やり取りを行った。

本単元では、相手の考えを聞いた後のやり取りに焦点を当てる。そこでは、相手の考えや理由とその根拠を把握するだけでなく、相手と自分の考えを比べ、相手の考えに関わらせて自分の意見を述べるようにする。

まず、生徒は「My Idea Note」に、自分の考えをキーワードでメモする（図1①）、（図2①）。そして、友の考えを聞く際に、「My Idea Note」に、新しい情報や友の考えをメモしていく。例えば、自分の考えと友の考えとの共通点や疑問点などに印を付けたり、自分の考えと異なる部分を付け加えてメモしたりする（図1②）、（図2②）。そして、メモしたことを基に、自分の考えを整理しながら、やり取りを行う。このようにすることで、生徒は、「My Idea Note」にメモした情報を基に、友の考えに共感したり、疑問を述べたりするなど、相手の考えに関わらせて自分の意見を述べるようになっていくと考える。さらに、このようなやり取りを繰り返すことで、自分の考え、理由、根拠にも変化が生まれ、自分の考えを再構築することにつながると考えた。

また、本単元では国際問題に関する話題について扱うため、難しい表現や語彙が必要となることが予想される。国際問題に関する内容は多岐に渡る。それ故に、相手の考えを理解しにくかったり、友に何を述べたらよいか戸惑ったりすることも予想される。ここで生徒が「My Idea Note」に必要な情報をメモすることで、情報が可視化され、自分の考えを整理しながらやり取りを行うことにもつながると考えた。

- (1) 10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいことを同年代に提案するために、「My Idea Note」に新しい情報や友の考えをメモしたことを基に自分の考えを整理しながら、やり取りを繰り返す活動を位置付ける

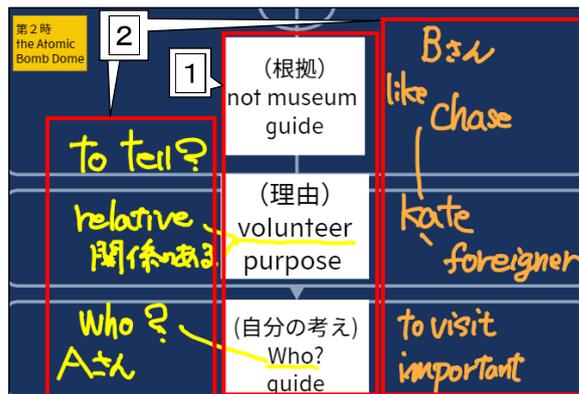


図1 「ロイロノート」を用いた「My Idea Note」に情報を付け加えた例（第2時）

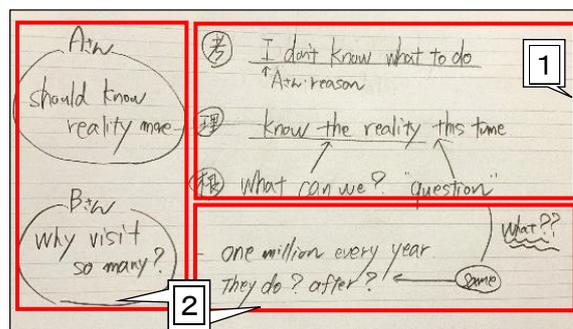


図2 普段使用している授業用のノートを用いた「My Idea Note」に情報を付け加えた例（第3時）

第1時、教師は、アメリカ出身のALTである Chase の考えを聞く場を設ける。Chase は、長崎を訪れる前後で、戦争や平和について自分の考えが大きく変化したことや、未来の平和な社会を築くために大事にしたいことを伝える(図3)。その上で、平和な社会の実現に向けて大事にしたいことは何かを尋ねる。生徒は、Chase の問いをきっかけに、世界で起きている様々な国際問題に目を向け、戦争のない平和な世界を願ったり、環境破壊、教育の不平等、人種差別、人権侵害などの諸問題の解決を願ったりするだろう。そこで、教師は、1年次の総合的な学習の時間で「10年後の社会を生きる私たち」をテーマに学習したことに触れ、10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいことを考えることを提案する。具体的には、長野市に住むインターナショナルスクールを含む中学生、高校生、大学生などの同年代も同様の取組を行っていることを伝え、「Innovation from Teenagers @ NAGANO SDGs PROJECT」に自分たちの考えを英語で提案することを勧める。そして、Lesson Goal “Let’s suggest our important things for a peaceful society in the coming decade.”を設定する。生徒は、自分の生き方と関連させて、様々な国際問題について考えていこう。一方で、国際問題に関する話題について、自分の考えをもてなかつたり、考えをもてたとしてもそれを英語で表現することに難しさを感じたりする生徒もいるだろう。そこで教師は、教科書ではどのような話題を扱い、どのような英語で表現されているのか、読んでいくことを提案する。

- ・学生時代、授業で第二次世界大戦について学習したことを機に、日本の戦時下の様子について深く知りたいと願い、長崎原爆資料館を訪れた。
- ・戦争が正しいとか間違っているとかではなく、二度と戦争を起こしてはならないと強く感じたので、多くの外国人に長崎原爆資料館を訪れてもらい、自分と同じことを感じてほしい。
- ・資料館への訪問以来、平和な社会とは何かを考え始めるようになった。そして、自分の子どもを含めた次の世代の人々のために、地球の環境を保つことや、道徳的な判断ができるような人を育てることが大事だと考え、教師になった。

図3 Chase の考えの一部

第2～5時、教師は、教科書掲載の「広島原爆ドームの説明」、「広島平和記念資料館を見た外国人の感想」、「佐々木禎子さんの物語」の英語を読む場を設ける。生徒は、戦争の悲惨さを目の当たりにしたり、その中でも懸命に生きた人々がいたことを読み取ったりするだろう。教師は、生徒とやり取りしながら本文の内容について確認する中で、現在分詞や過去分詞を後置修飾として用いた表現の特徴やきまりを確認していく。そして、読んだ英語の内容について考えたことや感じたことなど、自分の考えを「My Idea Note」に整理し、やり取りを行う場を設ける。教師は、やり取りの内容を全体で共有する際に、

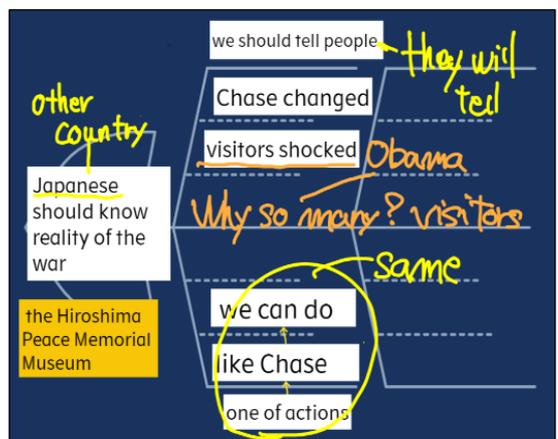


図4 「My Idea Note」に情報を付け加えた例(第3時)

「My Idea Note」に情報を付け加えながらやり取りを行っていた生徒の「My Idea Note」(図4)を紹介し、グループでどのような意見を述べ合ったのかを尋ねる。生徒は、自分の考えと友の考えを比べ、共通していることや疑問に思ったこと、新しく知ったことなどを答えるだろう。教師と代表グループのやり取りを聞いている他の生徒は、自分の考えと友の考えとの共通点や相違点など、自分の意見を述べるために必要となる新しい情報や友の考えを「My Idea Note」にメモし、自分の考えを整理していくとよいことに気付くだろう。また、教師は、意見を述べ合う際に多くの生徒が使いそうな表現や、生徒が英語で表現することができなかった内容に関する表現の仕方を全体で確認していく。このようなやり取りを繰り返していく中で、生徒は、日本国内をはじめ、世界各国の人々が広島平和記念公園内の像に折り鶴を捧げる行為について、平和な社会の実現に向けた取

組の一つに相当するだろうなどと友と述べ合っていくだろう。そこから、平和な社会の実現に向けた人々の考えや取組について、さらに知りたいと願うだろう。

第6～7時、教師は、前時の生徒の振り返りから、生徒が関心を寄せた国際問題について調べ、世界各国の出来事や人々の取組を知るために英語の記事を読む場を設ける。生徒は、たった一人の若者から始まった活動が、世界的な停戦の日「PEACE DAY」につながったことや、近年の新型コロナウイルス感染症による偏見や差別に対する慈善活動が行われていることなどの情報を得て、平和な社会の実現に向けた人々の考えや取組、表現の仕方などを理解していくだろう。教師は、調べたことを踏まえ、「Innovation from Teenagers @ NAGANO SDGs PROJECT」への提案に向けた自分の考えを「My Idea Note」に整理し、やり取りを行う場を設ける。生徒は、自分の考えや理由とその根拠とのつながりを明確にしたり、話す順序を考えたりしながら自分の考えを友に伝え、互いの理由や根拠の不明確な部分について質問し合うだろう。

第8時（本時）、教師は、「友が質問をしてくれたことで自分の考えが明確になった」、「新たな考え方に気付くことができたので、さらに他の人の考えも聞いてみたい」という前時の振り返りから、Today's Goal “Let's discuss our ideas for a peaceful society in the coming decade.”を設定する。生徒は、より多くの友の考えに触れるために、前時とは異なるグループでやり取りを行う。生徒は、新しい情報や友の考えなどを「My Idea Note」にメモし（図5）、自分の考えを整理しながら考えたことや感じたことを述べ合うだろう。教師は、「同年代」や「10年後の未来」、「自分たちにできること」などの考えの視点をもってやり取りを行っているグループに、



図5 最初のやり取りを行った後の「My Idea Note」の例（本時）

「My Idea Note」に整理した内容とその理由、さらにはやり取りの内容を全体に発表するように促し、考えの視点や表現の仕方を全体で共有する。生徒は、単元を通して考えてきた内容を述べ合うことで、提案に向けた自分の考えを明確にし、英語で表現することができるだろう。教師は、1回目のやり取りや全体共有で得た考えの視点や表現の仕方から、2回目のやり取りに向けて「My Idea Note」を見返すように促す。生徒は、「My Idea Note」の自分の考え、理由、根拠の部分や付け加えた情報を見返し、提案に向けた自分の考えを修正したり、1回目では触れなかった視点から考えたことを書き込んだりするなど、必要な情報を「My Idea Note」にメモし（図6）、自分の考えを整理していくだろう。その後、2回目のやり取りを行うことで、友の提案内容について考えたことや感じたことを理由とともに述べ合うことができるだろう。

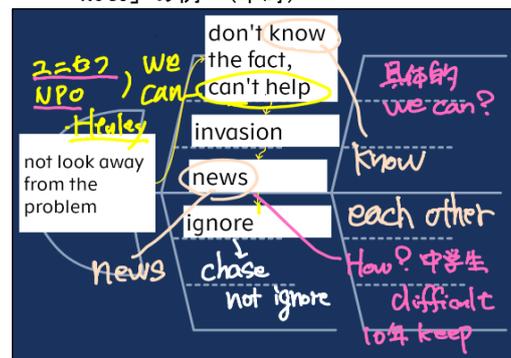


図6 全体で共有した後に見返した「My Idea Note」の例（本時）

第9時、教師は、前時のやり取りから得た情報を踏まえ、自分の最終提案の内容を「ロイロノート」に書くように促す。その後、共有機能を用いて全体で提案内容を共有した後、生徒は、自分の提案内容をウェブサイト「Innovation from Teenagers @ NAGANO SDGs PROJECT」に投稿する。

以上のように、10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいことを同年代に提案するために、「My Idea Note」に新しい情報や友の考えをメモしたことを基に自分の考えを整理しながら、やり取りを繰り返す活動を位置付ける。このようにすることで、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、国際問題に関する話題について、考えたことや感じたことを述べ合うことができると考えた。

(2) 単元の終末、「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画や毎時間の振り返りを見返しながら Lesson Goal に向けた学習過程を内容面と言語面から振り返った後、「10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいこと」について、大学生とやり取りを行い、意見を述べ合うために必要なことについて考える場を位置付ける

教師は、単元を通して、毎時間の終末に Today's Goal に対する内容面と言語面からの振り返りを「ロイロノート」に記述するように促し、共有機能を用いて友の振り返りを読む場を設ける。生徒は、友の振り返りに共感したり、自分では気付かなかった新たな考えや表現に触れたりする中で、次時に生かしたいことや単元を通して大切にしたいことなどを、追加機能を用いて「ロイロノート」に整理していく(図7)。

第10時、教師は、これまで「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画や毎時間の振り返りを見返しながら Lesson Goal に向けた本単元の学習過程を内容面

と言語面から振り返る場を設ける。生徒は、10年後の平和な社会の実現や、同年代に提案をするために考えてきたことを振り返り、ALT や友と意見を述べ合うことで自分の考えが深まり、提案した内容を今後の総合的な学習の時間や生徒会活動などにも関わらせていきたいと願うだろう。また、友の考えと関わらせた意見を述べるために、「My Idea Note」に新しい情報や友の考えをメモしたことを基に、考えたことや感じたことを述べ合ってきたことを振り返り、メモした情報を基に自分の考えを整理していくことの大切さや、自己の英語での表現の高まりに気付くだろう。

最終時、自己の高まりを自覚しつつある生徒の反応を受け、「10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいこと」について、信州大学教育学部学校教育教員養成課程英語教育コースの大学生とグループでやり取りを行うことを提案する。生徒にとって大学生は、教育実習を通して関わりがある身近な存在であり、年齢も生徒の約10年後の姿に当たる。そのため、生徒は、自身の10年後の姿を想像しながら、大学生の考えに興味をもって取り組むと考える。生徒は、自分の考えを伝えたり、大学生の考えに触れたりしながら、相手の考えについて考えたことや感じたことを述べ合うだろう。そして、自分の提案が大学生に理解してもらえたことや、自分の考えをさらに深めることができたことから、英語で述べ合うことの良いさを実感するだろう。

その後、教師は、意見を述べ合うために必要なことについて考える場を設ける。生徒は、ALT や友、大学生とのやり取りにおいて、得られた情報から意見を述べ合うために自分の考えを整理する際、相手の考えに関わらせることを大切にしてきたことから、どのようなやり取りの場面においても、相手の考えをよく聞き、相手の考えに関わらせて自分の意見を述べることの有用性を認識するだろう。

以上のように、単元の終末、「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画や毎時間の振り返りを見返しながら Lesson Goal に向けた学習過程を内容面と言語面から振り返った後、「10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいこと」について、大学生とやり取りを行い、意見を述べ合うために必要なことについて考える場を位置付ける。このようにすることで、英語で意見を述べ合うことの良いさを実感したり、相手の考えに関わらせて自分の意見を述べていくことの有用性を認識したりすることができる。

<b>第3時の振り返り</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア出身の Kate は、広島平和記念資料館を見てどのように感じたのだろうか。</li> <li>・現在分詞 people making~を使ってどのような人かを詳しく表すことができた。</li> </ul>
<b>追加した友①の振り返り</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島平和記念資料館に関する動画に衝撃を受け、胸が痛くなった。私たちも修学旅行でこの資料館を訪れるので、事前に平和学習を通して学んでいきたい。</li> </ul>
<b>追加した友②の振り返り</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ing や ed などの分詞は、A of B など以前学習した後置修飾と同じ発想でよいことが分かった。A bomb dropped on Hiroshima was big のように使いたい。</li> </ul>

図7 生徒が授業の振り返りを整理した「ロイロノート」の例(第3時の例)

8 単元展開 10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいことを同年代に提案するために、国際問題に関する話題について、考えたことや感じたことを述べ合う学習

全11時間扱い 本時は第8時

段階	◆学習 ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」		評価の観点	時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応		
導入	◆ALTの考えを聞いて、考えたことや感じたことを友と伝え合う。		● 思 態 (観察・録画した動画)	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTのChaseと共に修学旅行について生徒とやり取りを行う。</li> <li>アのような反応から、Today's Goal "Let's talk about the thought of Chase."を設定する。</li> <li>未来に向けて大事にしたいことについてやり取りを行う場を設ける。</li> <li>ウのような反応から、Lesson Goal "Let's suggest our important things for a peaceful society in the coming decade."を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア Chase先生は、旅行で長崎原爆資料館に行ったようだが、何を考えたり、感じたりしたのだろうか。</li> <li>イ Chase先生は、戦時下における様子に衝撃を受け、戦争を二度と起こしてはならないと強く感じたようだ。自分の子どもを含めた次世代の人々の未来のためにも、環境保全や子どもへの教育が大切だと考えている。</li> <li>ウ 戦争をなくすことが大事だと考えたが、友は人種差別や人権問題を解決することが大事だと考えていた。</li> <li>エ 総合的な学習の時間で学習した「10年後の社会を生きる私たち」の生き方につながる内容だ。人によって関心のある国際問題は異なるので、友と意見を交えながら考えたい。そして、自分の考えを同年代の人々に伝えるため、NAGANO SDGs PROJECTに提案してみたい。</li> </ul>		
	◆教科書の本文を読み、「My Idea Note」に新しい情報や友の考えをメモしたことを基に自分の考えを整理しながら、考えたことや感じたことを述べ合う。			
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の本文の内容①②③について考えたことや感じたことをグループでやり取りを行う場を設ける。</li> <li>①「広島原爆ドームの説明」</li> <li>②「広島平和記念資料館を見た外国人の感想」</li> <li>③「佐々木禎子さんの物語」</li> <li>生徒とのやり取りから、現在分詞や過去分詞を後置修飾として用いた表現の特徴やきまりを確認する。</li> <li>やり取りの内容と「My Idea Note」に付け加えた情報から、意見を述べるために必要な情報や、表現の仕方を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オ オーストラリア出身のKateは、広島平和記念資料館のことを初めて知ったようだ。ガイドを行っているのがボランティアの方々だと知って驚いた。その方々はどのような思いでガイドを務めているのか知りたい。</li> <li>カ 禎子さんの望む平和とは、学校に通って友と過ごす日常だったのかもしれない。毎年世界中から折り鶴が送られてくることに驚いた。</li> <li>キ 人やものを詳しく表すために、現在分詞や過去分詞を形容詞として用いて表現するとよいことが分かったので、使ってみよう。</li> <li>ク 自分の考えとの共通点や相違点などから自分の意見を述べるために必要となる新たな情報や友の考えをメモし、共通していることや疑問に思ったこと、新しく知ったことなど、相手の考えに関わる疑問や自分の意見を述べていくとよいことが分かった。意見を述べるために参考となる情報を「My Idea Note」に整理していきたい。</li> <li>ケ 友は、折り鶴に込めた世界中の人々の思いをつなぐことが平和な社会につながる取組だと述べていた。日本だけでなく、世界各国の人々の思いや取組も知りたい。</li> </ul>	●● 技知 (観察・録画した動画)	2 5
	◆関心を寄せた国際問題について調べた英語の記事を読んだ後、自分の考えを「My Idea Note」に整理し、考えたことや感じたことを友と述べ合い、提案内容を決める。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケのような反応から、関心を寄せた国際問題について調べ、世界各国の出来事や人々の取組に関する英語の記事を読む場を設ける。</li> <li>10年後の平和な社会の実現のために大事にしたい自分の提案内容について、グループでやり取りを行う場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コ 「PEACE DAY」という活動を調べると、一人の若者から始まった戦争反対の活動が世界的な停戦の日につながったことが分かった。他にも、企業だけでなく、同年代の様々な個人や団体がSDGsに関する活動や発信を行っていることが分かったので、自分も発信してみたい。</li> <li>サ 自分の考えや理由とその根拠とのつながりを意識して、「My Idea Note」に整理しながら友に伝えることができた。互いの考えを深めるためにも、次回は他の友の考えも聞いてみたい。</li> </ul>		6 9

		<p>本時のねらい：新しい情報や友の考えなどを「My Idea Note」にメモし、自分の考えを整理しながら、提案内容について考えたことや感じたことを理由とともに述べ合う。</p>			
展 開	<p>・ Today's Goal "Let's discuss our ideas for a peaceful society in the coming decade." を設定する。</p>	<p>シ 同年代に提案する目的を大切に、「My Idea Note」に必要な情報をメモし、考えを整理しながら友の考えについて意見を述べていきたい。</p>	13分	<p>○思 態 (観察・録画した動画)</p>	6 〜 9 (本時は第8時)
	<p>ス (自分の考えを伝える場面) We should not look away from the problem. Recently, the invasion happened. I could hear the news about this issue every day. However, I sometimes wanted to ignore them because it was so scary and think about war deeply. But, I noticed. If I don't know the fact, I can't help anyone being in trouble forever. Even though it's sad, we mustn't escape from the reality.</p>				
	<p>セ (友の考えについて意見を述べる場面) Your idea, to join the activity for peace taken by UNICEF or NPO as much as possible is a nice idea, but I think this activity seems to be a little wide issue. We need an example activity. Which activity do you recommend the best? If I were you, I would suggest the PEACE DAY.</p>				
	<p>・ やり取りの内容を全体に発表するように促し、「My Idea Note」と共に考えの視点や表現の仕方を共有する。</p> <p>・ 全体で共有した考えの視点や表現の仕方を基に「My Idea Note」を見返し、やり取りを続けるように促す。</p>	<p>ソ 発表したグループは、「同年代」だけでなく、単元を通して考えてきた「10年後の未来」、「自分たちができること」について意見を述べ合っていたので、自分も次はこれらの視点からも述べていきたい。また、自分の理由は友に比べて経験が多かったため、もっと事実となる根拠が必要となりそうだ。</p>	17分 10分		
	<p>タ (友の考えについて意見を述べる場面) Your idea is "Let's read the world news" to know each other well, I agree with your reason because I have almost the same reason. If we know what's going on in the world, we can save people in need. But, I want to know how we will know the latest news, especially the fact. It's not so easy to do for teenagers. Also, it's difficult to keep our motivation to know the facts. What do you think?</p>				
<p>・ Today's Goal に対する内容面と言語面からの振り返りを「ロイロノート」に記述するように促す。</p> <p>・ 友の振り返りを読んで、新たに気付いたことも踏まえ、振り返りを記入する場を設ける。</p>	<p>チ 「同年代」に、「自分たちができること」の視点も重ね、友の提案内容について自分の意見を述べる事ができた。より多くの友の考えを知ることができたので、もう一度自分の提案内容も考え直してみたい。現在分詞や過去分詞を使うことで、短い文で言葉を修飾することができるようになってきた。</p>	10分			
<p>・ 自分の考えを「ロイロノート」に書いてまとめ、提案するように促す。</p> <p>・ 共有機能を用いて全体で提案内容を共有した後、「Innovation from Teenagers @ NAGANO SDGs PROJECT」に投稿するように促す。</p>	<p>ツ 戦争のない平和な社会から考え始めたが、理由や根拠を広げ、自分たちがすべき具体的な提案になったと思う。</p> <p>テ (提案内容の一部) Let's try not to look away from the problems. If we understand the problems including the facts, we can help people being in trouble. Not only watching news, but also becoming interested in politics, that is important to make our own future.</p>				
終 末	<p>◆英語で意見を述べ合うことの実感したり、相手の考えに関わらせて自分の意見を述べていくことの有用性を認識したりする。</p>			<p>○知 技 思 態</p>	10 〜 11
<p>・ 「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画や毎時間の振り返りを見返しながら Lesson Goal に向けた学習過程を内容面と言語面から振り返る場を設ける。</p> <p>・ 「10年後の平和な社会の実現に向けて大事にしていきたいこと」について、大学生とグループでやり取りを行う場を設ける。</p> <p>・ 意見を述べ合うために必要なことについて考える場を設け、考えを全体で共有する。</p>	<p>ト 提案内容について友と意見を述べ合うことで自分の考えが深まったし、英語で表現できることの幅も広がったと思う。これからも英語を使ってやり取りを充実させていきたい。そして、この提案を今後の総合的な学習の時間や生徒会活動などにつなげたい。</p> <p>ナ 自分の提案内容や英語の表現が大学生に理解してもらえたとし、大学生の考えについて自分の意見を述べる事ができた。互いに意見を述べ合ったことで自分の考えをさらに深める事ができた。</p> <p>ニ 「My Idea Note」に新しい情報や友の考えをメモしたことを基に自分の考えを整理し、友の考えと関わらせることを考えながら意見を述べる事ができた。メモがなくても相手の考えに関わらせて意見を述べていきたい。</p>				

## 9 資料

教科書 (NEW CROWN 3) の本文とデジタル教科書にある映像のスク립ト

### ① The Memorial of the War (introduction)

(映像) In Japan, there are many monuments for World War II. This is Hiroshima Peace Memorial Park. It reminds us that world peace is important. This large statue stands in Nagasaki Peace Park. The statue's right hand is pointing to the sky. It reminds us of the bomb. Look at the left hand. It symbolizes peace. The statue's eyes are closed. It's praying for the victims of the bomb. This is the Himeyuri Peace Museum in Okinawa. Here, we can remember the Okinawan students and teachers who died in the war. There are also many memorials for World War II in other countries. This is Auschwitz. It was a concentration camp in Poland. During World War II, many people were killed in the camp by the Nazis. Anne Frank and her family died here. This building is a museum. You can see the reality of the war. It became a World Heritage Site in 1979. This is the National Mall in Washington, D.C. there are many monuments here like the Lincoln Memorial, the Washington Monument, and some national museums. Here is World War II Memorial. This is the Freedom Wall. It has 4,048 gold stars. The stars represent Americans who died in the war. In front of the wall, there is a message. "Here we mark the price of freedom."

### ② the Atomic Bomb Dome

Many buildings here were destroyed in 1945. Only this remained. We call it the Atomic Bomb Dome. It became a World Heritage Site in 1996. It expresses the hope for world peace.

The person holding a binder is a volunteer guide. Let's listen to him. He'll explain about the Dome.



(映像) This is a famous building. Do you know it? On August 6, 1945, an atomic bomb was dropped on Hiroshima, and the city was destroyed. However, one building was not destroyed completely. The walls and the frame of the dome remained. People call it the Atomic Bomb Dome. It's an important symbol of hope for world peace. It became a World Heritage Site in 1996. Now, more than one million people visit this memorial every year.

### ③ the Hiroshima Peace Memorial Museum

Kate: I saw damaged things on display. They shocked me.

Mr. Oka: I understand your feelings. It's important for us to see the reality of war.

Kate: I agree. It must never happen again. What can we do?

Mr. Oka: Well, it's a question raised by many visitors here. Let's think about it together.



(映像) This is the Hiroshima Peace Memorial Museum. It opened in 1955. The museum shows visitors the reality of war. They hear the stories of the victims. They see the photos of people who died. Here are some clothes that children wore on the day of the bomb. These items might shock the visitors, but it makes people think about war and peace.

### ④ Sasaki Sadako

#### The Story of Sadako

① It began with a flash. On August 6, 1945, an atomic bomb was dropped over Hiroshima. Sadako was two years old. At least 130,000 people died by the end of the year, but she survived.

② When Sadako was in elementary school, she especially liked her P.E. class and was good at sports. She wanted to be a P.E. teacher when she grew up. Sadako was a fast runner. In the sixth grade, she was selected as a member of the relay team for the school's sports day.



③ About a month after the sports day, Sadako suddenly became sick. At first she thought that she just had a cold. However, her sickness got worse, so she went to the hospital with her family. A doctor told her parents, "She has a kind of cancer caused by the bomb. I doubt she'll survive for more than one year."

④ In the hospital, Sadako received some paper cranes. In Asia, cranes are a symbol of long life. Sadako began to fold paper cranes and wished for good health. She wanted to go back to school. She never lost hope. Sadako made over 1,000 cranes. However, she never left the hospital. Her life ended when she was only twelve.



⑤ There is a famous statue standing in Hiroshima Peace Memorial Park. It is a girl holding a crane. It was built by Sadako's friends. Every year many people send paper cranes to Hiroshima from all around the world. The cranes are for Sadako and for peace.



(映像) In Hiroshima Peace Memorial Park, you can see thousands of paper cranes. Have you seen this statue? Do you know who the girl is? It's Sasaki Sadako. She was sick because of the atomic bomb. She made many origami cranes because she wanted to get well. She died when she was 12. Sadako's friends built this statue of her. People began to offer thousands of cranes to the statue. Paper cranes become a symbol of hope for peace. Look at this pretty T-shirt with a crane. These fans are made from recycled paper cranes. These souvenirs help visitors spread the message of peace to the world.